

## 8 中学校用「つり橋の村」 指導例

本資料は、十津川村立小原中学校の生徒たちが、「十津川生き生きプロジェクト」の学習を通して自分たちの郷土への愛着を深め、多くの人々に十津川村の素晴らしさを知らせようと活動した姿を、郷土を大切に思う十津川村や新十津川町の人々の姿と重ねて描いたものである。小原中学校の生徒たちの思いや行動は、等身大のものとして多くの中学生の共感を呼ぶことであろう。

また、小原中学校の生徒たちは、つり橋について調べていく中で、先人のつり橋にかけた思いを知り、身近なつり橋に対する見方が変わっていく。資料ではそのことを「出会い直し」という言葉に象徴しているが、この言葉をキーワードに話し合うことを通して、郷土を改めて見つめ直し、郷土を愛する心情や態度を培いたい。

- ◆ **主題名** わたしたちのふるさと 指導内容 4-(8)
- 資料名** つり橋の村 (奈良県郷土資料 県教育委員会)

### ◆ ねらい

十津川村や新十津川町の人々の十津川村への思いや、十津川村の中学生たちの郷土に対する思いについて考えることを通して、郷土を見つめ直し、郷土を愛する心情を高める。

### ◆ 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される生徒の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、奈良県にある「日本一」について話し合う。	○ 奈良県にある日本一のものを知っていますか。 ・墨や茶笏 <small>せん</small> の生産は日本一。 ・法隆寺は世界最古の木造建築物。	・自由に話し合わせ、資料への導入ととともに「ふるさと」としての奈良県を見直す機会とする。	
展 開	2、資料「つり橋の村」を読んで話し合う。	○ 新十津川町の人たちが、「北を望むフキの像」を十津川村に贈ったのは、どんな思いからでしょう。 ・いつまでも忘れないし、忘れないでほしい。 ・これからもずっとつながりを大切にしたい。  ○ 小原中学校の生徒たちは、つり橋を調べながら、どんなことを考えていたでしょう。	・開基から百年たった新十津川町から贈られていることに着目させ、連帯の願いはもちろんであるが、もう一つの故郷である十津川村に対する新十津川町の人々の心情を考えさせる。  ・調べることを通して、郷土について新たな発見をしたり人々の思いに触れたりし	ワークシート

展		<ul style="list-style-type: none"> <li>・来る人たちに、村のことをもっと知ってもらいたい。</li> <li>・十津川村のことを前よりも好きになった。</li> </ul> <p>◎ 新十津川町の人々と小原中学校の生徒たちに共通しているものは何だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十津川村のことが好きだという気持ち。</li> <li>・ふるさとを大切にしたいという思いや願い。</li> <li>・思いを行動に移していること。</li> </ul>	<p>たことを押さえ、生徒たちの十津川村への愛情の深まりに共感させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・故郷を離れた立場と現在もそこに住んでいる立場との違いが、離れた故郷とつながりたい気持ちと、もっと故郷のことを知ってもらいたい気持ちとして、それぞれ表れていることに着目させ、郷土を愛する気持ちの広がりや深まりを考えさせる。</li> <li>・ワークシートに書き込むことを通してじっくりと考えさせ、それを基に積極的に話し合えるようにする。グループで話し合わせてもよい。</li> </ul>	ワークシート
開	3、自分を振り返る。	<p>○ 郷土との「出会い直し」をしたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の○○が昔から多くの人々に愛されてきたことを知って、自分も大切にしたいと思った。</li> <li>・地域の祭りに参加したとき、これからも受け継いでいきたいと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの郷土を振り返り、郷土についての思いや考えを自由に話し合うことで、郷土を見つめ直すとともに郷土を愛する心情を高めるようにする。</li> </ul>	
終末	4、「心のノート 中学校」を開き、読んだり書き込んだりする。	<p>○ 「心のノート」120、121ページを開きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心のノート」を活用したり、郷土のために力を尽くしている人々や指導者自身の郷土に対する思いを話したりして、郷土を愛する心情をさらに温めたい。</li> </ul>	「心のノート」

※「心のノート」は、次のURLよりダウンロードできます。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.htm)

## 9 中学校用「山桜」 指導例

本資料は、桜の名所で有名な吉野山をモチーフに、吉野山の桜の品種である山桜を自分と重ね、自分の弱さを克服し逆境を乗り越えようとする主人公の姿を描いている。多くの中学生にとって主人公の姿や悩みは等身大であり、主人公のものの見方や考え方の変容を共感をもって受けとめることができるであろう。

資料では、父が主人公へ伝えたい思いを、山桜が「自分らしくあるために、自分の花を咲かせる」という比喩表現に象徴している。学習展開では、この言葉をキーワードとする話を設定したい。さらに、そのことが今も「わたし（主人公）をずっと支えている」ことの意味について考えさせることで、自己の弱さを克服し、人間として精一杯生きることの大切さや喜びに気付かせ、よりよく生きようとする意欲を高めたい。

◆ **主題名** 自分らしくあるために 指導内容 3-(3)

**資料名** 山桜 (奈良県郷土資料 県教育委員会)

### ◆ ねらい

主人公のものの見方や考え方の変化、父が主人公に伝えたかったことなどについて考えたり話し合ったりすることを通して、自己の弱さを克服し、人間として精一杯生きることの大切さや喜びに気付かせ、よりよく生きようとする意欲を高める。

### ◆ 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される生徒の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、吉野山の桜について話し合う。	○ 吉野山の桜を知っていますか。 ・毎年家族で花見に行っている。 ・シロヤマザクラという品種だとは知らなかった。	・自由に話し合わせ、資料への興味・関心を喚起する。	
展 開	2、資料「山桜」を読んで話し合う。	○ 部屋に閉じこもった「わたし」はどんなことを思っていたでしょう。 ・やっぱり自分には才能がないんだ。 ・これ以上バレーボールを続けるのは辛い。やめたい。  ○ 人知れず咲く山桜を見たとき、「わたし」の胸にこみ上げ	・部活動での体験などを出し合い、努力が報われなかったという主人公の悔しさや自分に才能がないと思う悲しさなどに共感できるようにする。  ・山深くだれも見ることがなくても毎年花を咲かせてい	

		<p>てきた熱いものとは何だったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目立たなくても力の限りに咲いている山桜への共感。</li> <li>・人知れず咲く山桜にこれまで頑張ってきた自分自身を重ねたことによる悲しみ。</li> </ul>	<p>る山桜に自分自身を重ねながら、主人公が感じた健気さやいじらしさ、気高さなどについて自由に話し合わせ、考えを深められるようにする。</p>	
展		<p>◎ 人知れず咲く山桜を見せ、父が「わたし」に伝えたかったことは何だったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だれかに認めてもらうためではなく、自分にできることを精一杯していくことの大切さ。</li> <li>・挫折を味わっているのはおまえだけではないという励まし。</li> <li>・他人と比較することより、自分らしく生きることの素晴らしさ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身に対して言い聞かせるように話す父の姿から、主人公への励ましの思いとともに父自身の生き方についても考えさせる。</li> <li>・ワークシートに書き込むことを通してじっくりと考えさせ、それを基に積極的に話し合えるようにする。</li> </ul>	ワークシート
開		<p>○ あの日の山桜が、今も「わたしをずっと支えている」とは、どういうことだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・辛く苦しいときに山桜を思い出して自分を励ましている。</li> <li>・あのとき感じた父の温かさがずっと自分の支えになっている。</li> <li>・だれのためでもなく、自分らしく生きるために頑張ろうと思えるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山桜の姿や父の思いを心の支えにして生きてきた主人公について話し合うことを通して、自分の弱さを克服し、人として精一杯生きることの大切さや喜びに気付かせる。</li> </ul>	ワークシート
終末	<p>3、「心のノート 中学校」を開き、読んだり書き込んだりする。</p>	<p>○ 「心のノート」80～83ページを開きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしくよりよく生きようとする心情を温めるようにする。「心のノート」を活用するほか、教員の経験や音楽を聴くなどの工夫も考えられる。</li> </ul>	「心のノート」

※「心のノート」は、次のURLよりダウンロードできます。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.htm)